

# 「アイヌ古式舞踊」奉納

伊勢神宮まがたま祭



奉納を終えて武本会長らと記念撮影する白老民族芸能保存会の人たち

## 神宮正式参拝初めて

### 「アイヌの神知って もらうことに意義」

しており、屋根つき奉納舞台や観覧休憩施設の新築奉納、外宮および周辺の整備、やがては内宮を含む神宮全体の整備作業を通じて、神宮に奉仕する考えを明らかにしていく」を後援し、今年から

「まがたま祭」は平成十一年から開催しており、これまでには「まがたま」の贈り物―障害者の神宮参拝―を実施。神々への「比叡山天台修験道法会」、日本文化の継承と隆昌を願う「剣の舞」、

伊勢神宮の弥栄に寄与しようと平成九年に設立され、外宮・内宮の環境保全と周辺の整備事業を通して、神宮に奉仕している伊勢神宮勾玉会(武本俊会長、東京都千代田区神田小川町一ノ二 浜総ビル五階)は、第七回「伊勢神宮まがたま祭」を十三日午前九時から外宮の勾玉池奉納舞台で執り行ない、アイヌ民族の白老民族芸能保存会が「アイヌ古式舞踊」を奉納、外宮・内宮に正式参拝して世界平和を祈願した。神宮の歴史の中でアイヌの人たちが自らの伝統文化を披露し、正式参拝したことはなく、保存会のメンバーで(財)アイヌ民族博物館学芸員の村木美幸さんは「伊勢の神様にアイヌの神を知ってもらうことに意義がある」と話している。

勾玉会の武本会長は、ひとつである勾玉と外宮・内宮の現状は、の勾玉池にちなんで「伊勢神宮勾玉会」を設立し、神宮司庁の正式な参拝者が見せている。神宮を認め、最初に手がけたのが勾玉池の浄化事業で、自然環境を保全しつつよどみ、んだ水の浄化を進めていく。平成二十五年に斎行される第六十二回式年遷宮に向けての活動も開始

神社の  
ハート  
に育て七五三

韓国伝統舞踏研究所によ

製作した。

「祝願舞」、坂東流志

鳥羽シーサイドホテル

で催された前夜祭には、

賀次派家元による「吉祥

大和舞」、昨年は中国の

神宮司庁関係者や前伊勢

市長、三重県選出の国会

議員、県・市議会議員、

京胡演奏家による「京胡

演奏」を奉納した。

また、平成十五年から

伊勢市観光協会、協力団

体など各界代表が多数参

加。翌朝の「まがたま

祭」は、アイヌ民族衣装

を着た白老民族芸能保存

会、日本文化の継承と

隆昌を願う「剣の舞」、

て「勾玉会旗」も新たに

大きな拍手を浴びた。